

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第 149 回放送の概要 (2019 年 9 月 28 日放送)

パーソナリティ

たろう

(佃 由晃)

なか

(中嶋邦弘)

くらら

(河野真紀)

あきこ

(村上明貴子)



ミキサー

門ちゃん

(門田成延)

かりん

(妹尾優香)

会計

小山俊則

相談役

わだかん

(和田幹司)

1. ゲストコーナー (1) まちづくりコンサルタント (株) コー・プラン 吉川健一郎さん

「まちづくり」の言葉を漢字の町、街と書くのはハードの事業をする場合に使い、阪神大震災が発生した頃から住民参加、住民主体のまちづくりと言う場合、平仮名を使うようになっている。仕事上「まちづくりコンサルタント」と言う時、地域の方々が自分のまちを少しでも良くするために取り組むお手伝いをしようという気持ちで携わっています。

吉川さんは名古屋で生まれ、大阪大学の土木工学科に進み、最初は橋やダムなどの土木構造物関係に進みたいと思った。大学では小学校の時に始めたサッカーを大学でも続けていたが、専門課程に上がる時に留年し、その時街中をぶらぶらしている時に、大学院では土木ではなくまちづくりなどの計画系に進みたいと思い、大学院環境工学科の都市計画専攻に進んだ。

大学院 1 年生の時に阪神大震災が発生し、住居は問題なく、研究室もエレベーターが止まる程度であった。大学院入学後、まちづくりに関わる専門家が、大学院生や社会人 1, 2 年生を対象に、現場の事例を紹介する勉強会が週 1 回神戸で開催されており、震災前年の 5~12 月まで通っていた。先生は神戸でまちづくりコンサルタントをしていた人、参加している社会人 1, 2 年生の上司で、現場の仕事を教えてもらった。震災直後に大阪大学のゼミの鳴海邦碩先生と勉強会の事務局 (コー・プラン: 代表は小林郁雄さん) が窓口になって、神戸大学と学生たちが目視で全壊、半壊の全貌を調査をすることになり、震災 1 週間後には神戸大学で会合を持つことが出来た。神戸大学生がすでに行っていた調査結果の色塗りをし、その調査を芦屋、西宮、淡路などの被災地に広げる調査を、建築学会、土木学会、都市計画学会、大学の先生が連携し、ゼミ生が分担しながら調査した。吉川さんは 2 人組のチームで芦屋全域の調査をし、その後西宮、宝塚、淡路の調査を行った (被災度別建物分布状況図)。第 1 期分 (神戸市内) の調査は 2 月 13

日に終わり、第2期分（芦屋、西宮、淡路他）は3月13日に調査完了した（阪神・淡路大震災調査報告 建築編—10）。

壊滅的被災の直後にこのような大規模調査が出来たことについて、神戸は個人や小規模ながらもまちづくりコンサルタントが多く、神戸大学、大阪大学、大阪市立大学などの都市計画の先生方のネットワークがあり、コー・プランの小林郁雄代表の勉強会で出会っていたことなどで大規模調査が可能であった。この調査結果が行政の大枠の計画検討に活用された。

大学院2年生の時、神戸市は被災者が再建に向けて建て替えをするための住宅再建窓口をまちづくり会館に設けており、吉川さんは相談対応は出来ないが、相談者が相談したい内容を聞き取るワンストップ窓口を担当した。

就職した年から区画整理事業が決まりはじめ、鷹取地区の土地を集約管理し共同化するため、共同化を希望する手をあげた住民（地権者）の意向を聞き調整するサポートをした。

芦屋市が災害公営住宅を、南芦屋浜の埋め立て地に建てることになり、下水処理場しか出来ておらず、これから街ができて行くという段階であった。入居者は何もないことに不安で、入居前のコミュニティづくりが必要ということで、そのためのワークショップに取り組んだ。建物は800世帯もあり画一的になるため、部屋に閉じこもりにならないよう、部屋から出てくる仕掛けづくりをした。広場や公園になる場所を段々畑にしてみんなで収穫する、6つの棟毎に違うアーティストがエントランスにテーマを込めてデザインした（コミュニティ&アート計画）。入居前のコミュニティづくりと入居後もコミュニティが継承される仕掛けづくりをした。このような基本となる計画は行政や小林郁雄さんが担当していた。入居を考える人は高齢者が多く、住宅が出来る場所は今は何もなくて島流しと考え、不満を抱える人が多かった。住む人同士が顔を合わせる機会を作ろう、暮らしの夢を語ろうと共同空間に出て来れるよう、野菜好きを集め段々畑で野菜を作るクラブを作ったりする旗振りをしていた。

東日本大震災支援については、2011年5月の連休明けから夏まで岩手県宮古市、8月からは今も訪問が続いている宮城県気仙沼市を訪問した。これはまちづくりというより、全国商店街支援センターから津波被災地の商店街復興の支援を依頼されたもので、初めに被災状況調査があるので長目に常駐するよう言われた。訪問した8月は仮設が出来る前の避難所生活で、紫神社の会館が自主避難所になっており、そこで商店街の有力者を紹介してもらい、商店街の状況把握を行った。一つの自治会は70~90世帯で、その9割の住民がどこに避難しているかが把握されていた。避難者の話を聞くとこれからどうなるのかの心配をしており、阪神大震災時の区画整理の話をしったりする勉強会を開いた。仮設商店街は12月オープンを目指して動いていたのでその手伝いもした。

阪神大震災時、神戸は復興のまちづくり協議会があり、住民の意見を協議会から行政に提案しており、地域の意向を反映する仕組みが出来ていた。気仙沼は協議会がなかったが、行政主導で自治会長と自治会長が推薦するアドバイザーで構成する協議会が作られ、吉川さんも参加できることになった。それから協議会関係と商店街復興の2つのテーマを担当した。気仙沼はどこの自治会も9割近く住民の居場所が把握され更新されている。これは日頃から顔の見える関係がつくられており、備えるという意味で一番大事なことである。災害発生後は正しい情報を共有することが大事で、そのため協議会の下に地区会を作る提案をし、情報共有できる一番小さな単位に行政から説明に来てもらうことにした。住民が正しく選択し、

今後のくらしを考えるベースになった。

阪神大震災の教訓の反映について、反映されようとしていたもの、難しいものがあった。仮設住宅に関わる課題のフォローは、新潟地震の時から言われていたことで、郊外に仮設住宅を建てると、知らない土地で知らない人同士になり、そこで人間関係を構築するのは時間がかかる。東北の場合適切な土地がないのでフォローが大事ということは言われていた。沿岸部はすべて被災しているので、教訓は理解できてもどこまでできるか疑問であった。ただボランティアが仮設住宅をフォローしていたのは阪神大震災の財産と思う。

2. ミュージック：たかとり救援基地復興隊 「夢光る町神戸を」

3. ゲストコーナー（2）

吉川さんが現在長田などで取り組まれているまちづくりの事例について伺いました。

（防災のまちづくり）

神戸市は小学校区毎に**防災福祉コミュニティ**があり、今後南海トラフ地震が発生する恐れがあり、沿岸部の地区では兵庫県が発表した当時の想定の2倍の津波避難マップを作っている。水平避難の範囲を検討し垂直避難時の避難ビルの指定を行っている。最近豪雨や台風による広島や神戸でも経験した土砂災害が多発している。災害直後は消防などの行政支援が入りずらいため、生死の分かれ目になる場合があるので、地域でどこまで助け合えるかを検討し決めておくことが必要で、そのため**地域お助けガイド（災害初動期対応計画書）**を策定することになっているのでそのサポートをしている。

（にぎわいのまちづくり）

3年前に新長田に合同庁舎建設計画が発表された。新長田商店街の東地域は再開発事業から取り残されているので、地域住民は起爆剤として捉え、庁舎で働く人、訪問する人が増えるので活性化につながる取り組みを行った。東地域の六間道商店街や本町筋商店街は、周辺地域に比べ被害が小さかったので自力で頑張ってきた。本町筋商店街の若手女性が中心となり、魅力を発信し来てもらおうと、新長田東エリアの物語「東本」という冊子を3年かけて作成し、10月1日に発行する。冊子の情報は豊富で、単なる店紹介ではなくまちの面白さ魅力を掘り起こし発信している。まちを含めてファンになってもらいたいと思っている。これは住んでいるからこそわかる、知る人ぞ知るという意味で「ツウのイースト！化計画」として取り組んできたものです。本町筋商店街は金物店が有名で、お好み焼きのコテに名前を入れマイコテを作る人がいる。またデコレーションした時計を作る時計店もある。色々技を持った店主が多い。暮らしに役立つ店、美味しい店、ベトナムなどアジアの店を知



ってもらいたい。今は知ってもらおうと SNS で拡散してもらえるので、知ってもらおう、来てもらう、買ってもらうように、人がたくさん来て回遊してもらえる取り組みをしている。

（商店街が地域と連携して進めるまちづくり）

長田神社、長田神社前商店街の春は「商工祭」、夏は「夏越祭」秋は「長田まつり」があり、長田まつりの神輿は震災で途絶えていた時期もあり、今年は令和最初ということでお神輿が出る。秋の祭りに合わせて商店街だけでなく地域の婦人会、PTA も一緒に「おやつはべつぱら」というイベントがある。元々神社前商店街にはういろ屋、ほうらく饅頭、瓦せんべいなど和菓子店が多いのでお菓子屋中心のイベントが企画された。また食欲の秋ということで買い回りのスタンプラリーをする。さらに10月12日（土）の初日は神社境内で「グージー杜フェス」が開催され、特設ステージで地域のキッズダンス16団体が1日中途切れなく出演する子供中心のイベントがある。最終日の10月26日（土）は長田神社全域でガラガラ抽選、餅つき他楽しいイベントがある。

夏越ゆかたまつりは姫路のゆかたまつりに負けないよう17年前に始まったもので、夏休み前で婦人会、PTA、青少協など子どもたちに関わる人を含めて一大イベントが行われます。うれしいのはたくさんの子どもたちがゆかたを着て参加してくれることです。地域の小学校の子どもたちの描いた提灯も展示される。



（宅配サービス）

長田神社前商店街は商店街、長田中央市場、食遊館、プレノ長田の4つの団体が構成し、有志のお店が集まり好きな商品を電話1本で宅配するサービスをしており、配達地域は基本は長田区で兵庫、須磨の一部も含まれている。山の手の坂が急なところのお年寄りにはうれしいサービス。サービスが始まったきっかけは、市場の人が最近おばあちゃん来なくなったと言うのを聞き、かつてのお得意さんにお届けしたらどうかと言ったことから始まった。お客さんも知っているので安心して注文が出来る。すでに7年目に入り、吉川さんはサービス開始時から関与している。電話を受けているオペレーターが一番苦労している。システムティックに注文、配達処理できない。電話で注文を聞き、色んな商品を扱っており、生鮮品は値段が変動するので各店に確認が必要である。届けたお客さんの笑顔を見ると、ニーズもやりがいもあるので頑張っていていけたらと思う。



（神戸常盤大学と連携したまちづくり）

長田区役所にまち育てサポーター制度があり、任命されている。そのテーマの一つとして長田にある神戸常盤大学の学生が地域と連携したり関わる機会をコーディネートしている。丸五市場では毎年6月～10月に月1回開催されているアジア横丁ナイト屋台の日に、学生がかき氷を出店している。学生は折角4年間長田に通うのなら少し足を延ばせば新長田があるので、出店を契機にまちに関心を持ってもらいたいと思っている。新入生には新長田のガイドツアーを行い、震災前のこと、鉄人広場から本町筋商店街まで案内している。

かき氷を始めたのは、今の学生は幼児教育学科が中心で、昨年6月の1回目は自分たちで楽しもうということでみんなで見に行った。気づいたことは多くのお客さんが来ている中、子供も結構来ていた。店で売っているのは大人の飲食品で子供向けがなかったことからかき氷を出店することにした。宇治金時は大人にも好評で大正筋商店街のお茶屋、味萬さんの抹茶を、餡子は長田神社前のういろ屋さんのものを使用している。かき氷屋には近所の小学生が月1回のナイト屋台を楽しみに来て22時まで遊んでいる。幼児教育学科の学生なので子どもの扱いに慣れている。常盤大学の学生には、学生の得意分野である子どもと触れ合うイベントを、地域で開催することを考えてほしいと思っている。



丸五アジア横丁ナイト屋台

（地域が主体となって進めるまちづくりが大事だと思うこと）

日頃から顔を合わせる機会や場が大事である。中央区でタワーマンションの仕事をしているが、そこは日常のコミュニケーションは最小限にしている。しかしまちに関わろうとする場合、災害時を考えると顔が見えるだけでお互い様とという感覚が生まれる。ふれあい喫茶などには行きたい人が行けば会えるので、そのような場が用意されているのが大事。また正しい情報を皆で共有することが大事。災害時はこれからどうしようかと悩んでいる時に、行政としては情報を伝えるだけでなく地域でお互いに情報を共有する場としての、気仙沼の地区会のような場が大事である。同じ話を聞いた人同士が次にまた話が出来るので、一人だけで考えず、皆で考えることが大事である。まちづくりの場合皆の考えがばらばらになるところを、こんなまちにしたいというイメージをどのように共有するか、なんとなく地域として納得できるものを見出していくかが大事。

（まちづくりコンサルタントの役割）

いろんな地域に出かけるが、最初から第3者、よそ者と思っている。会合にはまちづくりになにかの思いを持っている人が出てくるので、最初にその思いを聞かせてもらう。参加した違う思いを持った住民同士の話し合いがうまく進むようファシリテートする役目がある。仲の悪い人同士直接話すのではなく、よそ者が間に入り一緒に進めていく、コーディネートの役目がある。さらに第3者（よそ者）の眼ということで、住民が当たり前に思っていることがよそ者から見ると非常に面白いことがある。

小林郁雄さんは、「まちづくりとは地域における、市民による、自立的継続的な、環境改善運動」と現場の関わり方を言われている。「現場に真実あり、細部に神は宿る」を大事にしていきたい。

4. 地域瓦版

- 10月6日（日）11時～17時、新長田駅前鉄人広場で「第17回 琉球祭 in 神戸・新長田」
- 10月5日、6日 ポートオアシス及びび港の森公園で「神戸ワールドフェスティバル2019」



放送音声は、FMYYのHPおよび「ゆうかりに乾杯」のHPで視聴いただけます。
<https://tcc117.jp/fmyy/?cat=51> [http:// yukari-ni-kanpai.sakura.ne.jp/](http://yukari-ni-kanpai.sakura.ne.jp/)